

大雨で九州や東日本を中心に、各地で災害や生活に影響があった7月でした

7月、九州地方を襲った豪雨で甚大な浸水被害にあった方々や、亡くなってしまった方も出て、本当に心が痛みます。園舎が水没してしまった熊本の川岳保育園では、今年3月で廃校となった小学校を仮園舎として現在保育を再開しているという連絡が入りました。「5年前に情熱を傾けて新園舎に建て替えたばかりでの被災で、心折れそうになったが、(仮園舎は)元あった保育園からはだいぶ距離があり、転園もやむなしのところ、ひとりの転園者もいなかったのが大きな支えとなり、ボランティアや地域の人たちの支えもあり、今は前を向いて保育を進めている」ということです。少しでも支援が出来たらと考えています。皆さんご協力よろしくお願いします(玄関に募金箱もあります)。

さて、ののかぜの子どもたちは、梅雨空の下でも雨さえなければプール、水遊びを楽しんで来ました。勢いよく降った雨で、先月この園だよりで書いた、ホール脇の斜面にできた川が進化？し、そこにプールから流した水で川遊びも楽しんできた幼児クラスの子どもたちでした。

また、はじめての水遊びを開始した0歳児クラス、つくしの子どもたち。タライにはった水(温水)の中でぴちゃぴちゃ、バシャバシャ、しっとり…とそれぞれの個性で水遊びを楽しんでいます。



虫取りに夢中の子どもたち



朝、夕に園庭の草むらに出掛けは、虫取り網や素手でバッタや蝶を捕まえているのはすみれ組さんと幼児クラスの子どもたち。すみれ組のK君は常に虫取り網を持って、ちょっとでも動くものがあれば機敏に反応し、飛んでいる蝶も粘り強く追いかけています。見事捕まえた時の“やったぜ!”という顔はとても満足そうです。また、ダンゴムシやカブトムシも子どもたちを夢中にさせています。

なぜ、子どもたちは虫を捕まえて遊ぶかという問いに、名和昆虫博物館館長の名和哲夫氏は、「知的好奇心を育てている」と語っています。科学や文明を築き繁栄してきた人類にとって知的好奇心は生きる上で欠かせない。それをのぼそうとするのは本能で「虫は良い先生」と語ります。

捕まえた虫が結果、死んでしまいかわいそうな事もあるが、できれば見守って欲しい。虫が死んだらなぜ死んだのか、自分がやった事と結果を考えさせれば、命について考えるきっかけにもなる

また、虫の生命力はたくましく、子どもが捕まえる程度ではいなくなる。むしろ、大人の開発によって自然が壊され、多くの虫の住処が奪われていると指摘しています。

子どもたちを夢中にさせる虫との出会い、大切にしたいですね。

「へいわ」ってどんなこと

8月5日(水)に子どもたちと「へいわ」について考え合う機会を計画しています。当日は、スライドや絵本、そして、“ぞうれっしゃ”の歌など平和の歌を歌っていく予定です。

近年戦争体験を語り継ぐ人たちが高齢化し、子どもたちにとって(大人も)戦争をイメージすることがだんだんと難しくなっています。そうした中、次の世代を生きる子どもたちに戦争の悲惨さを伝えていくことが大切だと思っています。

8月6日、9日は広島・長崎に原爆が投下されて今年で75年目を迎えます。そして、8月15日は終戦記念日です。多くの人を苦しみや悲しみに巻き込んだ戦争を二度と起こしてはなりません。戦争の放棄を謳った憲法9条を生かし、戦争のない平和な社会を子どもたち手渡していくことが私たち大人の役割です。

